

表現豊かに民話を紹介

むかし話を語り継ぐ仲間の集い

第3回むかし話を語り継ぐ仲間の集いが2月5日（日）、町文化会館において開催され、町内外から訪れた約100の方が、各地域の昔話を楽しました。

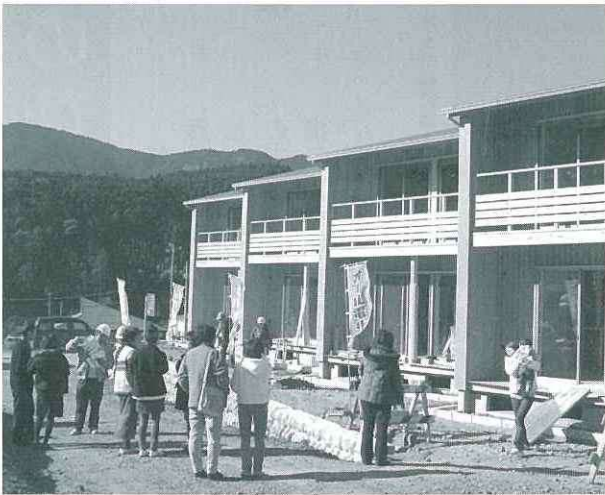
この集いは、3年前から各地域に伝わる民話を語り継ぎ、次の時代に伝えていこうと行われています。

集いでは川根本町より、お話しどんぐりと中川根語り部の会話楽座が参加しました。お話しどんぐりは、ペープサート（紙人形劇）によって町内三津間地区に伝わる「旅の坊さんがくれた手ぬぐい」を、話楽座は中原すま子さん（地名）が町内地名に伝わる「四郎作テイツクテイ」を奥野恵美子さん（梅高）が町内上長尾に伝わる「信州猫檀家」をそれぞれ聞かせました。この他にも袋井市の袋井むかし話の会が「孝女妙冲尼」を、浜松市佐久間の佐久間やまんばんの会が「狸をたました金蔵さん」を発表しました。



様々な工夫を凝らし民話が話されました
(写真は佐久間やまんばんの会)

多くの見学者が訪れました



若者定住促進住宅の見学会実施

町が地名地区に建設を進めている、若者定住促進住宅の現地見学会が2月10日（金）行われました。

見学会には11組25人が参加し、住宅設備や維持経費、禁止事項などの説明を担当者から受けた後、建設中の建物を見学しました。

参加者の1人は「木がふんだんに使われていて、いいと思います。完成するのが楽しみです。」と話されていました。住宅は、平成21年までに20戸の建設を計画しています。

昭和初期の駅舎が復活

大井川鐵道田野口駅を改装

大井川鐵道（株）が進めていた同鉄道の田野口駅駅舎の改修工事が完成しました。これは、同鐵道が昨年8月から進めている「駅舎等を対象とするロケーション・サービス推進事業」の一環として行われたものです。

大井川鐵道では、近年映画やドラマで駅を利用した撮影が増えてきており、開業当時である昭和初期の姿でほぼそのまま残っている駅舎も撮影のロケーションになるのではと、改装が行われたものです。

今回の改装で、開業当時の雰囲気再現しようと、切符売り場や小荷物取り扱い窓口を復元したほか、壁の塗装も木調の茶色に統一されています。



これまで板張りであったところも窓ガラスに戻され、昔ながらの駅風景が復元されています（田野口駅駅舎内）